

FLOWCON 設立記念シンポジウムを開催しました

2025 年 6 月 18 日、東京都内にて、当組合の設立記念シンポジウムを開催いたしました。国土交通省、経済産業省をはじめとする関係者の皆様約 200 名にご参加いただき、日本のエネルギー自給率向上と脱炭素化の「切り札」とされる浮体式洋上風力発電の導入加速に向けた、具体的な戦略について議論が行われるとともに、当組合活動への期待と激励をいただきました。



【FLOWCON 役員と組員各社の代表者】

冒頭、当組合理事長野口より、洋上風力発電の拡大を目指すためには、着床式並みの生産性とコストで浮体式を実現する「大量急速施工」が必要である一方で、それらを阻む日本の海域環境や、インフレ等による発電設備設置コストの上昇、巨大な部材を扱う上での既存港湾の物流制約といった課題が山積している状況について説明がありました。



【FLOWCON 野口】

これらの課題を解決するアプローチとして、「海上作業基地(海上プラットフォーム)」の活用が提示され、陸上にある基地港湾と連携することで、建設能力を2倍に向上させ、年間30基の発電設備の設置の可能が示唆されました。

パネルディスカッションでは、「わが国の浮体式洋上風力建設のための基地港湾および会場作業基地のあり方」について、技術的な議論に加えて、既存港湾の有効活用や発電事業の予見性など、より広範なビジョンや課題が提示され、登壇された皆様と議論を

深めました。

最後に、業界全体が「協調と競争」を両立させ、日本に適した「標準的な建設モデル」を確立することの重要性が当組合より示されました。

本シンポジウムが、浮体式洋上風力の導入促進の一助になれば幸いです。



【パネルディスカッション登壇者 左から、ファシリテーターの木場弘子様、パネリストの
東京大学大学院 鈴木英之特任上席研究員、北九州市港湾空港局 光武裕次理事、FLOWRA
寺崎正勝理事長、FLOWCON 野口哲史理事長】